

「心情を豊かにする」授業実践

幕別町立札内中学校 第1学年

指導者 教諭 七田 伸克

1 主題

生命尊重 3-(1)

2 ねらい

生命の尊さを理解し、かけがえのない命を精一杯生きようとする道徳的心情を養う。

3 資料名

「たったひとつのたからもの」(加藤浩美著 文藝春秋)

4 主題設定の理由

(1) 本時に関わる内容項目

3-(1)「生命尊重」生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。

生命は、かけがえのない大切なものであって、決して軽々しく扱われてはならない。生命を尊ぶことは、かけがえのない生命をいとおしみ、自らもまた多くの生命によって生かされていることに素直にこたえようとする心の現れといえる。

自他の生命を尊ぶためには、まず自己の生命の尊厳、尊さを深く考えることである。生きていることの有り難さに深く思いを寄せることは、必ずや自己以外の生命をも同様に大切にすることははずだという予想と期待があるからである。また、ここでは、主として人間の生命について考えるが、人間以外のすべての生命の尊さについても価値を置きながら考えなければならない。

近年、生徒の生活様式も変化し、自然や人間とのかかわりの希薄さから、生命あるものとの接触が少なくなり生命の尊さについて考える機会を失いつつある。また、中学生の時期は、比較的健康に毎日が過ごせる場合が多いためか自己の生命に対する有り難みを感じている生徒は決して多いとは言えない。身近な人の死に接したり、人間の生命の有限さやかけがえのなさに心を揺り動かされたりする経験をもつことも少なくなっている。そのためか、生命軽視の軽はずみな行動につながり、社会的な問題となることもある。

指導に当たっては、人間の生命のみならず身近な動植物をはじめ生きとし生けるものの生命の尊厳に気付かせ、生命あるものは互いに支え合って生き、生かされていることに感謝の念をもつよう指導することが重要な課題となる。例えば、自分が今ここにいることの不思議、生命にいつか終わりがあること、生命はずっとつながっていることなどを手掛かりに考えさせることができる。自らの生命の大切さを深く自覚させるとともに、他の生命を尊重する態度を身に付けさせることが大切である。さらに、2の視点や4の視点との関連のもとで、人間の生命は、人間関係の中で保たれるという側面があることも考えさせることが求められる。一人一人の生活、居場所が保障されることで、人間は、その生命を全うすることも忘れてはならない。

【中学校学習指導要領解説 道徳編】

(2) 本時と道徳教育との関わり

① ねらいとする道徳的価値

指導内容3-(1)では、「生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する」ことをねらいとしている。生命はかけがえのない大切なものであって、決して軽々しく扱われてはならない。しかし、中学生の時期は、比較的健康的に毎日が過ごせている場合が多いためか自己の生命に対する有り難みを感じている生徒は決して多いとは言えない。そのため、生命軽視の軽はずみな行動につながり、社会的な問題となることもある。

3-(1)の指導においては、登下校の安全についてや仲間の大切さなど、日常の指導において、一人一人の命や存在が大切であることを気付かせるよう心掛けている。中学生の時期は、自己の存在に関心をもつ時期でもあり、このような時期に生命の有限さやかけがえのなさについて深く考えさせることはたいへん意義のあることと考える。

② 生徒の実態

(省略)

(3) 資料について

生まれて一か月後にダウン症と重い心臓病で1歳の誕生日を迎えることも難しいと告知された「秋雪くん」の母親の著書である。秋雪くんの生きた6年間の様子とそれを見守り続けた家族の思いが書かれている。6年間という短い生命を精一杯生き抜く秋雪くんの姿やその家族の思いに触れることで、子どもに対する親の愛情を感じ、生命をいとおしむ心を育む資料である。

5 研究内容との関わり

(1) 指導の要点の明確化

子どもたちは、「命を守る学習」や「性の指導」において、命の大切さや生かされることへの感謝に気付いているが、生命を尊重する意味やそのかけがえのなさについて必ずしもじっくりと考え、深めることができているとは限らない。本時では、かけがえのない命を精一杯生きることの大切さについて考え（価値理解）、自己との関わりについて一層考えを深めさせたい（深化）。

- 道徳教育との関連 「深化」
- 価値理解について 「価値理解（道徳的価値は大切であること）」

(2) 期待する学びの姿

本時では、幸せに生きるとはどういうことかを考えさせることを通して、精一杯生きることの大切さを考えさせ、生命の尊さを感じさせたい。そこで、「幸せとは何か、幸せに生きるとはどういうことなのか」「精一杯生きることの大切さ」を考えるとという子どもの学びを想定し、以下の期待する学びの姿を設定した。

- 期待する学びの姿①
 - ・ 幸せについて、自分の経験に照らしてワークシートに記述している。
- 期待する学びの姿②
 - ・ 精一杯生きることの大切さについてワークシートに記述している。

(3) 指導方法の工夫

① 発問の工夫

精一杯生きること考えさせるために、まず幸せとは何か、幸せに生きるとはどのような生き方なのかを、資料に沿って発問をする。精一杯生きることや幸せに生きることについて、生徒は深く考えたことがあまりないと思われるので、資料の言葉を引用しながら、生徒の思いを引き出すことのできるように工夫する。

② 資料提示の工夫

秋雪くんの生きた6年間の様子や家族の様子を、生徒が理解しやすいよう映像を使って紹介するとともに、母親の気持ちを紹介するときは、著書を読み聞かせ、生徒の心情に訴えるよう、資料提示を工夫する。

③ ワークシートの工夫

「幸せ」について深く考えた経験がないと思われるので、秋雪くんのお母さんが考える「幸せ」について紹介した後、自分の考えが記述しやすいようワークシートの様式を工夫する。

6 本時の展開

(1) 本時のねらい

生命の尊さを理解し、かけがえのない命を精一杯生きようとする道徳的心情を養う。

(2) 学習指導過程

指導過程	学習活動と主な発問 (◎主発問)	指導上の留意点(●) 期待する学びの姿(■)
導入	<p style="text-align: center;">生命の尊さについて考える。</p> <p>○ 保健体育では性についての学習を、交通安全では命の守り方についての学習をしてきました。</p> <p>○ これまでの命の学習を踏まえ、今日は、「生きる」ということについて考えていきたいと思います。</p>	<p>● これまでの学習内容を振り返ることができるようにする。</p>
展開 (前半)	<p style="text-align: center;">資料「たったひとつのたからもの」の写真を見て、秋雪君の生涯を知る。</p> <p>◎ ダウン症と重度の心臓障害をもつ秋雪君。その秋雪君とのお別れのとき、お母さんは秋雪君に「よく頑張ったね」と語りました。頑張ったこととは何だったと思いますか。</p>	<p>● かけがえのない生命をいとおしむお母さんの行動に共感させる。</p>
展開 (後半)	<p style="text-align: center;">「幸せ」について考える。</p> <p>◎ 「人の幸せは命の長さではない。」お母さんがずっと支えられてきた言葉です。「人の幸せは()なのです。」皆さんなら()に何を当てはめますか。</p>	<p>■ 幸せについて、自分の経験に照らして記述している。</p>
終末	<p style="text-align: center;">「幸せに生きる」ことの大切さについて考える。</p> <p>○ 皆さんは、どう「生きる」ことが幸せだと思ったでしょう。最後に、秋雪君の写真がCMになりました。そのCMの映像を見て授業を終わらしましょう。</p>	<p>● 生命の大切さを自覚させるとともに、自他共の生命を尊重する心情を養わせる。</p> <p>■ 精一杯生きることの大切さについて記述している。</p>

7 子どもの学習状況

(1) 期待する学びの姿①

幸せについて、自分の経験に照らしてワークシートに記述している。

「人の幸せは（ ）なのです」皆さんなら（ ）に何を当てはめますか。

- 食べ物がある、それだけでいい。
- 一秒でも楽しく生きること。
- ただ、普通に生活すること。
- 帰るところがあること。
- 友達に会えること。
- 生まれて、友達にも会えて、元気でいられること。
- 一日一日を大切にしておごすこと。
- 毎日笑って過ごすこと。
- 家族と一緒にいて、友達と遊べること。
- 家族や友達と毎日楽しく、笑顔で過ごせたら、それで幸せ。
- 普通じゃなくてもいいけど、普通に生きていくこと。
- どんなにつらいことがあってもがんばって生きること。

(2) 期待する学びの姿②

精一杯生きることの大切さについてワークシートに記述している。

これからの人生をどう生きていきたいですか。

- 一日一日がただ過ぎるのではなく、一分一秒大切に、楽しく生きていきたい。
- 今をしっかり生きる。今みんなと一緒にいられることを大切にしたい。
- 今まで、何が幸せかなんてあまり考えたことはありませんでした。これからは人を思いやる気持ちを忘れずに日々を送っていきたいです。
- 私は大きな病気をしているわけではありません。これからも毎日家族や友達と楽しく、元気に過ごしたいです。
- もうすぐあなたは死にますって言われてもいい位、今を精一杯生きたいです。
- 親が苦勞して手に入れた命だから、無駄にならないようにしたい。
- 今自分がこうして生きているのは、本当に奇跡なんだなぁと思った。
- これからは父さんやお母さんに恩返しをしたいと思いました。

8 研究に関わる本時の検証

(1) 「指導の要点の明確化」について

- 子どもは様々な場面で命を大切にすることは学んでいるが、必ずしもじっくり考え深めているとは限らないことから、本時では「深化」と「価値理解」という視点をもって授業を進めた。
- 本時で扱う内容項目がどの教育活動と関連があるのかを精査し、関連のあるそれぞれの活動の指導の意図や子どもの変容から、本時ではどのような学習が必要かを考えることができた。
- 「深化」という視点をもつことで、本時の学習内容が深まるだけでなく、例えば総合的な学習の時間の「命の学習」や保健体育の「性の指導」の意義が子どもたちにもより理解された。
- 「価値理解」という視点で指導過程を構成することにより、自分との関わりで考えさせることで、「生命尊重」という道徳的価値と今まで生きてきた人生の中で経験したことと照らし合わせて考えさせることができた。

(2) 「期待する学びの姿」について

「期待する学びの姿」を設定することで、子どもの学習が達成されたかどうかの評価をするだけでなく、達成に向けて授業者がどのような手立てが必要かを考えることができた。また、その手立てが有効だったかどうかの検証をすることもできた。

○ 期待する学びの姿①

- 幸せについて、自分の経験に照らしてワークシートに記述している。

「幸せ」について、様々な思いはあるが表現することが難しいと思われたので、空欄を埋める様式のワークシートを用意し、記述しやすいようにした。

「幸せ」について深く考えたり、今までの自分の人生を振り返ったりすることで、記述することが難しいと感じた生徒がいたが、ワークシートの工夫により、表現することができた。

○ 期待する学びの姿②

- 精一杯生きることの大切さについてワークシートに記述している。

「精一杯生きること」を考えさせるためには、秋雪くんの6年間の生き様や家族の心情を理解させる必要があると考えた。資料提示の工夫を工夫したこと、短い時間でこれらを理解させることができた。

6年間の様子や家族の様子を紹介するとともに、母親の気持ちを読み聞かせて紹介することで、子どもたちは「幸せ」についてや「生きる」ということについて深く考えることができた。

(3) 「指導方法の工夫」について

① 心情を豊かにする発問

「生命」について、子どもたちが考えたり経験したりしたことのない資料を扱い、登場人物の心情を問う発問をすることで、子どもたちの心を揺さぶることができた。

子どもたちの心を揺さぶることで、「やっぱり生命は尊いな」「命はかけがいのないものだ」と命の大切さやかけがえのなさを学級全体で考えることにより、ねらいとする道徳的価値の存在を望ましいと感じる雰囲気の中、一人一人の子どもたちが真剣にその道徳的価値を考えようとすることができた。

お母さんの必死に秋雪君を育てる姿を通し、お母さんの揺れ動く心情に触れることで、生命の尊さやかけがえのなさを理解することができた。

② 資料提示の工夫

映像であらすじを紹介し、各場面で心情を問う発問をすることにより、分量が多い資料の内容を理解することができた。

中心発問の前には、教師が資料を読み聞かせることにより、子どもたちの心情に訴えることができ、子どもたちの心を揺さぶることができた。

映像で本時の学習を振り返ることで、子ども一人一人が生命について考える時間となり、精一杯生きることについて自分の考えを培うことができた。

③ ワークシートの工夫

著者の文を引用し、ワークシートを穴埋めにするすることで、幸せについて自分との経験に照らして考えさせることができた。

子どもたちそれぞれの「幸せ」について交流する場面を設定すれば、より考えを深めることができたと考える。